

エンパワーするNGO



大阪YWCA

12
2025<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

対話から生まれる希望— YWCAがつくるセーフスペース

セーフスペースとは、暴力がなく、安心安全に過ごすことができ、あらゆる人が差別されず、排除されず、支配されず、その人の存在そのものが尊重される場



樋口 さやか

私は、20年近くYWCAの活動に関わらせていただいてきました。そのほとんどが「ひろしまを考える旅」に関するものでした。皆様もよくご存じの通り、このプログラムは、ひろしまを訪れ、現地の様子を目で見、被害者の声を直接聞き、日本がアジア諸国に対して行った加害の歴史や、核兵器がもたらす被害の実相を学ぶというものです。50年にわたり、YWCAの先輩方がこの取り組みを続けてこられました。年齢や国籍、性別を問わず多くの人々が、戦争の愚かさを知り、平和について学び、その学びを「二度と同じ悲劇を繰り返さないために、日々の生活や活動の中でどうかしていくか」を共に考えてきました。

この50年の間に、平和という視点から見れば、良い方向に変化したことも多くあります。しかし現在も、世界各地では戦火が絶えず、また戦争のない国でも、市民同士の分断が深刻な社会問題として現れています。安全を求めて生まれ育った土地を離れざるを得なかった人々が、新しい地での慣れない生活に疲れ果て、さらには戦火による心の傷に今も苦しんでいる姿を見ると、戦争とは何と愚かなものか、そして為政者たちは市井の人々の苦しみどれほど目を向けているのか、と考えるにはいられません。

戦争のない場所であっても、世界各地で、自らの利益を優先し、マイノリティや自分と異なる人々を排除しようとする排他的な政策を掲げるリーダーたちが支持を集めています。寛容さが失われ、排他的な言説や政策が許容されるような空気が世界的に広がっているのが現状です。

これからの世界は、人口動態や経済構造の変化に伴い、これまでとは全く異なる姿へと変わっていくでしょう。その中で、新しい人々との出会いを前向きに受け止め、柔軟に対応していくことが、分断と排他が広がる時代において、寛容な社会を築くためにますます大切になるのではないかと感じています。

そのためにも、YWCAが大切にしている「セーフスペース」の理念を、まずは私たち自身が実践し、その輪を少しずつ外へと広げて社会につなげていくことが、今の社会においてYWCAが果たすべき重要な役割なのではないかと思っています。

ひぐち さやか

公益財団法人日本YWCA会長、公益財団法人横浜YWCA会員。

「ひろしまを考える旅」の委員を長く務める。

クリスマスメッセージ

居場所がない人のために

朴 栄子（豊中第一復興教会牧師）



先日、里帰り出産のために帰省した友人の娘さんに会いました。大きなお腹の妊婦さんと優しく見守る両親。ありふれた家族の光景かもしれません。今から約2000年前のバレスチナで、婚約中のヨセフと身重のマリアが住民登録のために約120キロの長旅をした物語は、この時期に世界中で読まれ、幼稚園や教会では聖誕劇が演じられています。目的の地ベツレヘムに着いた時、マリアは産気づきます。そして暗く寒く臭い家畜のいる場所で、出産することになります。「彼らの泊まる場所がなかった」と聖書はサラリと語ります。

確かに住民登録のため、多

くの人が郷里に帰ってこた返していたでしょう。しかし、親戚の若いカップルに初めての子が生まれるのに、誰も部屋を提供せず、産着や食べ物ひとつ持つて来た気配もありません。

たのですが、周囲の人々は知りません。寒空の元、誰にも歓迎されず、暖かい寝具や産湯やスープ一杯もなかった出産。様々な事情のために清潔なベッドや温かい部屋、歓迎してくれる家族に恵まれない赤ちゃん、また悩めるお母さんがいます。

彼らは婚約中の身であり、結婚前の妊娠はご法度でした。いなづめの妊娠が分かった時、ヨセフは彼女が傷つくのを恐れ、密かに離縁しようとした。

慈恵病院（熊本市）の「このとりのゆりかご」（赤ちゃんポスト）に預けられた男性が、成人して社団法人「子ども大学くまもと」を立ち上げ、子どもの可能性を支援するすばらしい働きをしています。

エル・グレコの絵画などで「受胎告知」はよく知られていますが、マリアだけでなくヨセフにも天使が訪れて、お腹の子は聖霊によるものと知らされました。

ヨセフは信仰によってマリアとお腹の子を迎える決断をし

イエスは、誰のために来られたのでしょうか。立派な人、正しい人、恵まれた人だけの救い主ではありません。人から嫌われのけ者にされる人、何の保護も受けられず惨めな思いをする人、どこにも居場所のない人、誰からも関心を持たれない人、そんな人々の隣に寄り添う救い主です。

自分がみじめだ、価値がない、どうせうまくいかないと感じている一人一人のためにこそ、イエスは来てくださったのです。

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」

（ルカ2章6・7節）

薄暗い中、弟とゴソゴソサンタさんのプレゼントを探すクリスマス朝の子どもの頃の楽しかった思い出。長い年月がたち、引越して先で大切な友と出会うことができた。年上でもとてもかわいすぎてきな人だった。年末は一人の夫は忙しく帰りが遅かったもので、いつの頃からか息子と3人で食事をしケーキを食べる、そんなクリスマスを共に過ごすようになった。

一九八〇年いつものように過ごしていた時、電話で母の事故を知られた。息子と病院へ向かう時の冴えた空、空気、美しい星空だった。クリスマスの朝、母は天国へと旅立った。

その後彼女とは、互いに引越をしても行ったり来たりして会ったり、電話や手紙で連絡を取り合っていた。

ある時、段ボールの大きな荷物が届いた。電話をすると施設に入るので季節はずれの物等いろいろあるけど先に送ったとのこと。「ありがとう」というと「あの時は楽しかったね。本当に楽しかった、ありがとう、又会おうね。連絡するね。」普段と変わらないいつもの声だった。その直後彼女は夫と共に旅立ってしまった。あの時とは共に楽しんだ10数年間のことだったのだから。私にとっても忘れられない多くの思い出と共に過ごした友だった。

（会員 横内 いづみ）



ぶどうの木

ありがとう

232

けんぽうcafe

日本社会における外国人の現状、 共生社会のために



「けんぽうカフェ」とは、私たちの身近な生活や社会問題について、弁護士や先生にわかりやすく解説してもらい、自分の意見を気軽に話し合える場である。今年は、平和環境部委員会が長年行っていた「けんぽうカフェ」を梅田会員部委員会で復活させたいと思い企画した。理由は、「日本人ファースト」というフレーズが話題になったからである。藤井恭子弁護士（大阪法律事務所所属）からは、在日外国人や外国人労働者の置かれている状況、在留資格や難民認定の厳しさ、そして外国人の人権保障の現状について具体的な事例を交えた話があった。中でも技能実習制度が、帰国後母国の経済発展に貢献することを目的とした「国際貢献」のための制度であったことと知り、現実とのズレを感じた。新たな「育成就労」についても外国人の意志による転籍に制限があったり、家族の帯同を認めなかったりと課題は残る。「外国人は優遇されている」という人もいるが、国籍の区別なく納税し、健康保険料を支払って医療を受けることができる。今回、藤井弁護士の話を聞いて改めて、正しい情報を選ぶことの大切さと外国人の人権が十分に守られていない現実があることを痛感した。



グループでの話し合いでは、子どもたちからの多文化共生教育を行うことが大切だという意見や、沖縄と本土の戦後の価値観のちがいがなど、日本の中での分断や差別の構造にも共通する点があるという意見も出た。多様なルーツがある人との共生は、私たち一人ひとりの意識の問題でもあると感じた。多様な文化や価値観を理解し合い、互いに尊重できる社会をつくるためには、教育と対話の積み重ねが重要である。今日の学びを通して、共に生きる社会のあり方を自分ごととして考え続けていきたい。

（梅田会員部委員長

大畑 知子）

Books

編集部文庫



音盤の来歴
針を落とす日々
榎本空(著) 晶文社



過酷な地上戦の舞台となり住民の半数が命を落とした沖縄の伊江島。アメリカで神学と人類学を学び伊江島で暮らす著者は、お気に入りのレコードを糸口に、黒人や移民などアメリカで周辺化された人々の声を綴る。アメリカで沖縄でガザで世界中で暴力に晒されながらも抵抗する人々の声を本書は響かせる。

乳幼児期に、養育者との間に

何を隠そう、講師の井ノ崎敦子さんにこのテーマをリクエストしたのは私でした。1月に急逝された日本YWCA職員臼井一美さんの蔵書をみんなで譲ってもらおう、となったときに、ずばり「トラウマ・インフォームド・ケア」という本と出会ったのです。彼女もこういう気持ちで人と接しようとしたことを感じつつ学びました。

トラウマ・インフォームド・ケアというのは、対人関係や行動に問題や悩みをもつ相談者の現時点にだけ目を向けるのではなく、抱えている幼少期からのトラウマに目を向け、それを理解しながら援助しようという考え方です。

安定した愛着スタイルを獲得できていないのはその人の責任ではない。そのことを深く理解し、本人と話し合って共通理解を得ながら支援にあたる、ということがストンと腑に落ちました。

（会員 雀部 真理）



女性エンパワメント部公開講座10/11
大人の愛着障害と
トラウマインフォームドケア

聖書の言葉
わたしを呼ぶがよい。
苦難の日、わたしはお前を救おう。
（詩編50編15節）

株式会社
オフィスインテリア



Homepage

※本店 〒534-0024 大阪市都島区東野田町4-1-17 日本ロジックス大阪東野田ビル 2F
TEL.06-6351-8830(代表)

※東京支店 〒130-0024 東京都墨田区菊川1丁目18-1
TEL.03-5875-8315

お客様の事業成長に貢献する設計・デザイン・施工を一貫して計画・管理致します。

キリスト教葬儀に関する全てを承っております



株式会社

キリスト教葬儀専門
イースター式典社

0120-415-087(24時間) info@easter-net.co.jp

営業エリア:近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川

兵庫県尼崎市杭瀬本町1-2-5 グラシアコート3F TEL.06-6415-6861 FAX.06-6415-6862

http://www.easter-net.co.jp

パレスチナにつながれ！ 私たちの ローカルアクションプラン



ガザ停戦後も続くイスラエルによる空爆。西岸地区でも暴力が止みません。先日、世界YWCA主催のウェビナー「bullet and dove（銃弾と鳩）」を拝聴しました。世界各地の紛争下の女性の声を世界に発信する連続企画で、「パレスチナの声」シリーズでは正義・尊厳・平和を訴えています。ガザから、また西岸地区北部の町ジェニンからの報告もありました。停戦発効前のガザからの「今日停戦が実現しても、犠牲は続く」との訴えに、胸をつか

れました。破壊された故郷の復興、子どもたちの心の傷の癒し…。西岸地区では、自転車に乗っていただけでイスラエル軍に射殺された子どもたちの映像が。芸術・文化活動を通して子どもとユースに癒しと機会を提供する文化センター事務所窓からの動画に、そのような日常が映るのです！平和の実現のために私たちにできることは小さいかもしれませんが、現地の声を共有し、「パレスチナの人々は確かにここに生きている」と証言の輪を広げる



ジェニンからの報告（トルコ公共放送による「イスラエルの襲撃による子どもの犠牲」…ウェビナー内で紹介）

（会員 宮崎 祐）

厚生労働省委託事業
近畿中国帰国者支援・交流センター主催

自分を活かす『能力開発』 × 処世術としての『ビジネスマナー』

近畿中国帰国者支援・交流センターでは、今年度初めての試みとして、「自分を活かす『能力開発』×処世術としての『ビジネスマナー』」をテーマに講座を開設。当センターで長年学びを享受してきた方々が、この講座を通して、ご自身の持つ異文化力や能力を再認識し、「与える側」になれることを知り、自信をもって地域、職場、社会に関わってもらうことを期待している。

「自分について情報発信し、周りからフィードバックをもらう」ワークでは、気づけなかった自分に出会い、また「社交ダンスを模した」ペアワークでは、自分が発信した言葉と態度が相手にどう影響するかを検証し、自分自身の人との関わり方を振り返った。30代、50代の方々が、童心に返ったかのようにワイワイと楽しみながら参加している。「人生100年時代、有意義で幸せな日々を！」と



（職員 富田 美幸）

いう思いから生まれた本講座。ご自身の存在意義を高め、より豊かな人生を歩むための一助となることを願っている。

9月運営委員会報告

【報告】▼梅田会員部委員会

7/12恒例の紫蘇ジュース作り（まだ販売中）▼千里子育て支援委員会

9/12「おやこひろば」開催

【協議】①日本YWCAからのYWCAフェスタ2026会場

提供打診検討、詳細明示後継続協議 ②クリスマスバザー案内チラシ確認、部屋割り検討

訃報

会員 保々 恭子さん

11月13日逝去（78歳）

10月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント部

台風で延期の「女性ユースプログラム2025」、21/22実施決定 ▼千里委員会

1/23講演会「女性視点で防災はじめよう」

【協議】①1/10開催のYM・YW合同祈禱週集会、各Yからの報告検討 ②梅田会員部委員会

所属のグループ成立要件変更提案協議

ご協力ありがとうございました

25/9/1〜25/10/31敬称略順不同

賛助費

有田 悦子 河原 玲青 貴志 慶子
松下 宣代 南 憲明 宮澤 玲子

大阪商工会議所
（株）サンカラシッピング

積水化学工業株式会社
ワッコー株式会社

会員維持費

浅井やす代 野上由紀子 原 紀子
山本 町子

寄付

点字

豊中千里ロータリークラブ

バレット

西坂 恵美

クリスマス献金

笹部 昌子
12口 217、248円